

1 病気の子どもたちの教育とは？

(1) 病気の子どもの現状

医学の進歩とともに研究が進み、的確な診断が行われるようになった結果、より適切な治療が行われるようになり、病気の子どもの実態の多様化や短期間の入院という傾向が見られます。こうした状況は、病気の子どもにとっては望ましいと理解しつつも、教育に携わる立場としては知らない病気が増え、支援の方策が見当たらないといったことや、入退院を繰り返す子どもが増え、その間の教育保障や学習内容の理解・定着に困難を抱えるといった課題もあります。



さらに、心の病気が増えている傾向にあるなど、病気の子どもの教育は大きく変わりつつあります。こうした状況は、病気の子どもが必要とする教育を受ける場と機会を確保するという観点から、大きな課題となっています。

病気のために入院する子どもは、ここ20年ほどの間で約半分※)に減少しています。しかし、外来患者数はそれほど大きな変動はなく、病気の子どもがそれほど減っているわけではありません。また、2週間未満で退院するケースが多いため、入院した子どもは手続き等の関係で、病院内学級などに転校して授業を受けることができないケースも多くなっています。このことから、病気の子どもの多くが小・中学校等に在籍していると考えられ、特別な教育的な支援を要しない場合を除き、個々の病気の状況に応じた教育環境の整備や適切な指導と支援が必要です。

※) 厚生労働省 平成29年「患者調査」より

(2) 病気の子どもの教育（「学習空白」について）

近年は、病状が安定したり、急な病状の変化等が見られなかったりする場合、短期間で退院し、その後日常生活をしながら治療を継続することが多くなりました。しかし、必ずしも完治していないため、引き続き健康面には注意が必要となり、こうした状況にある子どもにとっては、退院して学校に復帰しても様々な配慮が求められます。

例) 心臓疾患の場合は、入学前に手術を受け、治療をほぼ終了していることが多いため、入学後は特別な支援を必要としないように見えることがあります。ただし、

- 乳幼児期での入退院の繰り返しから、日常生活経験が不足している場合が多い。
- 日常生活の経験不足から、知的な遅れがないものの学習内容を理解できない、様々な作業がうまくできない。

上記のような場合、状況の見極めと適切な配慮の下での指導が必要です。



また、退院後も定期的な外来受診や体調不良などによる欠席のため「学習空白」が生じることがあります。「学習空白」への対応と聞くと、未履修の部分を埋めるための学習だけをすればよいと考えがちですが・・・



- 学習したことが断片的なため、誤って理解していたり、学習内容を混同して覚えていたりすることがある。
- 一度間違っ理解したことや誤った解答方法・作業方法などについては、欠席が続くことなどにより、修正する時間がないまま、固定化してしまうことも少なくない。
- 子どもが学習に遅れまいとがんばって学習しても、学習内容を理解できなくなったり、体験や実技を伴う教科内容についてはうまくできなくなったりすることがある。

治療を最優先させる医療方針や「病気だから、無理して勉強しなくても」といった理由もあり、病気の子どもにとって「学ぶ」機会が置き去りにされてしまうなど、何らかの理由により教科等の未学習部分が生じた事態を「学習の遅れ」や「学習空白」として表現しています。病気による入院の場合（特に長期間の入院）や、治療効果を上げるための長期間に渡る生活制限は、小学校入学後の教科指導に関わる部分に未学習（「学習の空白」）を生じさせるだけでなく、場合によっては、乳幼児期からの生活全般に関わる「生きる力」の習得にも影響を与えることとなります。

病気の種類や状態、また心理的な側面から学習を優先しない方が良い場合が確かにある一方、『学習の遅れ』や『友達や家族との距離感』を不安に感じている子どもが多いことも事実です。「子どもは本来どんな状況であっても学びたい」という内発的な要求（思い）を抱えていることを、しっかりと受け止めて、学校として学習が継続できる環境を整えていく方向で応えたいものです。

（3）復学支援について

入退院に伴って学籍を移す場合は、学校同士の情報の共有が重要になります。特に退院して前籍校に戻る場合は、関係者で十分な情報を共有し、情報をしっかりと引き継ぎ、よりよい学校生活を送ることができるよう対応を確認しておくことが必要になります。例えば、退院前に保護者、学校関係者、医療担当者などの関係者が集まり「復学支援会議」を開き、学校での支援を確認しているところもあります。

（4）高校生支援について

高等学校の生徒にも病気の子どもはおり、入院中の学習の支援が必要とされています。平成27年には高等学校及び特別支援学校でも遠隔教育を活用できるようになりました。単位の修得の要件も緩和されています。学びの保障のためにも、各校で工夫して取り組む必要があります。

【参考資料】

[病気の子どもへの支援ガイド | 美の国あきたネット](#)

（※ クリックするとリンク先に移動します。）



このガイドは、病気のために日常的に支援を必要としている病弱・身体虚弱の子どもたちへの学校での教育支援について秋田県教育委員会がまとめたものです。